

令和7年度埼玉県農業技術研究センター 試験研究成果発表会プログラム

- 1 開催日時：令和8年2月16日（月） 13:00～16:00
- 2 開催会場：埼玉県農業大学校（住所：熊谷市樋春2010）
- 3 日 程
 - (1) 受付 [正面玄関ホール] 12:00～
 - (2) 開会式 [会場1、会場2共通] 13:00～13:10
 - ・開会の辞
 - ・挨拶
 - ・事務局から連絡、案内
 - (3) 講演発表 [会場1（大教室）] 13:10～16:00
[会場2（中教室）]
 - 【前半4課題】 13:10～14:20
 - パネル説明・休憩 14:20～14:50
 - 【後半3課題】 14:50～15:50
 - (4) 展示 [講堂] 12:00～16:00
 - (5) 閉会 16:00

講演発表

会場1（大教室）

発表時間	課題名（発表者）
13:10～	玉井試験場（熊谷市）における令和7年産水稻の作柄と気象による影響 熊谷市における今夏の水稻栽培期間は記録的な高温が続きました。このような気象条件が水稻の収量や品質にどのような影響を与えたかについて、本年度の玉井試験場生育相調査の結果を基に紹介します。 (水田高度利用担当 車田智哉)
13:25～	イネカメムシ、発生生態と防除対策についてわかったこと 近年、県内でも発生地域と被害が拡大しているイネカメムシ。農技研の調査・研究によって発生生態や有効な防除対策が明らかになってきました。今年の防除対策を立てる上で役に立つ知見をお知らせいたします。 (病害虫防除対策担当 酒井和彦)
13:40～	イネカメムシに対する薬剤による効率的な防除体系 イネカメムシの加害期間は出穂始から登熟期までと長く、複数回の薬剤防除が必要とされています。そこで、現在使用されている主要薬剤の殺虫効果と持続期間、それに基づいた防除体系についてご紹介します。 (病害虫研究担当 岩瀬亮三郎)
13:55～	近年発生が増えている害虫と新たな害虫について 気候の温暖化などに伴い、県内ではチョウ目害虫の発生などにこれまでとは異なる傾向がみられます。また、新たな害虫の発生も確認されるようになりました。今回は現地調査の結果からわかったことや注意点について情報提供します。 (病害虫防除対策担当 安田登美)
14:10～	総合質疑
14:20～	展示・休憩（30分）
14:50～	低い夜温で収穫量が確保できる「べにたま [®] 」 イチゴは一般的に夜温8°Cで栽培し、これより低い夜温では、通常、収穫量が低下します。しかし、県育成イチゴ品種「べにたま [®] 」は低い夜温設定（5°C）でも午前中の高気温を組み合わせることによって収穫量が維持できることが分かりました。 (野菜育種担当 尾田秀樹)
15:05～	育苗ポットの培地温を下げて暑い夏でもイチゴの花芽分化を遅らせない！ 近年、高温の影響からイチゴの花芽分化が遅れ、年内収量の低下が問題となっています。県育成品種を気化熱で培地温度を下げるポットで育苗したところ、花芽分化の遅延を抑制する効果が得られましたので紹介します。 (野菜育種担当 宗方淳)
15:20～	「べにたま [®] 」ブランドを守るためDNAから品種を見分ける 種苗の流出や不正利用は品種のブランド価値を損なうため、その対策として品種を見分ける技術が重要となります。県育成イチゴ品種「べにたま [®] 」について、DNA分析による品種識別技術を開発したので報告します。 (遺伝子情報活用担当 小山浩由)
15:35～	総合質疑

講演発表

会場2（中教室）

発表時間	課題名（発表者）
13:10～	<p>キュウリ増収のための効果的な灌水方法</p> <p>近年、施設キュウリでは増収を目的とした炭酸ガス施用を行う栽培管理が始まっています。こうした環境制御下でより増収を図るための灌水方法を開発したので報告します。</p> <p>（施設園芸先端技術担当 清野英樹）</p>
13:25～	<p>葉で陰を作つてトマトの高温障害果を減らす</p> <p>近年の高温の影響で、トマト果実のヘタの周辺が黄色くなるなどの障害が発生し、症状がひどい場合は廃棄されています。脇芽の葉を展開させて日よけにすることで、高温障害の発生を低減させる技術を紹介します。</p> <p>（次世代技術実証普及担当 柏原脩人）</p>
13:40～	<p>青パパイヤの初期生育促進で収量アップ</p> <p>県内ではパパイヤの未熟果である「青パパイヤ」の生産が広がりつつあります、収穫期間が短く、十分な収量が得られないことが課題となっています。そこで、定植後の初期生育を促進させ、収穫開始時期を早め、収穫期間を拡大する栽培技術を開発しました。</p> <p>（高収益畑作担当 小島健）</p>
13:55～	<p>新品種「あのみのりパワー」を用いた新たなナス青枯病対策</p> <p>ナス青枯病は鉄などを介して地上部でも感染するため、抵抗性台木を用いても穂木に抵抗性がなければ十分な防除効果は得られませんでした。本品種は青枯病抵抗性を持つ穂木品種として開発され、本県で抵抗性を評価したところ、高い抵抗性が認められました。</p> <p>（病害虫研究担当 小巻康平）</p>
14:10～	総合質疑
14:20～	展示・休憩（30分）
14:50～	<p>「卵」も「肉」も美味しい！～タマシャモから生まれた卵肉兼用鶏の開発～</p> <p>シャモ由来の大きくコクのある卵黄と肉の旨味を兼ね備えています。また、ケージ飼育に適した小型の体型と高い産卵性、丈夫な卵殻を持つなど、卵も肉も農家の収益向上につながる卵肉兼用鶏を開発したので紹介します。</p> <p>（養豚・養鶏担当 平野晃司）</p>
15:05～	<p>ニホンナシにおける最適なジョイントの仕立て方</p> <p>省力効果や早期多収性が見込まれるジョイント仕立て、ジョイントV字仕立てなどの密植単純樹形が開発されて以降、本県でも導入が進んでいます。より収量性を高め良質な果実を作るために、最適な植栽間隔や側枝の角度などの検証結果を紹介します。</p> <p>（果樹担当 小玉太郎）</p>
15:20～	<p>埼玉発！下水汚泥を活かした肥料で地域の資源をムダにしない農業へ</p> <p>下水処理で生じる汚泥を燃焼した灰には、肥料成分の一つである「りん酸」が豊富に含まれています。この灰を埼玉県は「菌体りん酸肥料」として登録しました。今回、この肥料を混合した資材を使って葉物野菜を栽培した結果を報告します。</p> <p>（環境安全担当 遠藤司）</p>
15:35～	総合質疑